



ゲーム終了後はみんなで得点を判定

ボッチャは、昨年のリオパラリンピックで日本チームが銀メダルを獲得し、にわかに注目を集めた。障がい者、とりわけ脳性麻痺<sup>ぼんせいまい</sup>などにより運動能力に障がいのある競技者向けに考案された競技で、赤または青の皮製ボールを投げ、白<sup>ましろ</sup>的球<sup>てきま</sup>にどれだけ近づけられるかを競う。

昨年の秋、本校校区内の東御市で障がい者スポーツイベントが開かれた。そこで紹介されたボッチャを体験し、その魅力を知った本校生徒と保護者・職員から「もっと多くの生徒たちにボッチャの楽しさを知ってもらいたい!」という声が上がリ、体育の授業で実施することとなった。

## 外部指導者招き体育で「ボッチャ教室」

早速、県ボッチャ協会、東御市の身体教育医学研究所から4人の指導者に来ていただき、「ボッチャ教室」を行った。

ボールの投げ方やルールを教えてもらい、赤・青のチームに分かれて、実際にゲームをしてみた。生徒たちは、自分の投げるボールはもちろん、友達の投げる様子もよく見ている。投げたボールが白球に近づく<sup>ちかづく</sup>と歓声が上がリ、みんなで喜び合う姿があった。終了後、生徒たちからは「楽しかった!」「またやりたい!」と声が上がった。

ボッチャのボールは投げやすく、またスロープ状の補助具もあり、障がいの重い子でも楽しめる。チーム意識も持ちやすく、さまざまな点で素晴らしい競技である。

なお、今回の授業では、地域の体育指導者の皆さんにもご協力いただいた。昨夏には水泳指導にも来ていただいております、地域との連携を深めるという点でも、大変意義深い取り組みとなった。今後もスポーツを通じて、ますます連携を深めていきたい。

(北村孝・長野県上田養護学校中  
学部長)